

☆ 総合授業リーダーに学ぶ 授業づくりQ&A ☆

# さめきの授業

基礎・基本

実践事例集別冊 IV

～子どもに学びのときめきを～



平成29年2月  
香川県教育委員会

## 目 次

I	はじめに	1 p
II	総合授業リーダーに学ぶ 授業づくり Q&A	
○	発問・助言	2 p
○	発言（考え）の取り上げ方	5 p
○	板書	8 p
○	グループ学習	11 p
○	「考える力」を育てる指導	16 p
○	「話し合う力」を育てる指導	22 p
○	個に応じた指導	28 p
III	おわりに	33 p

## I はじめに

1976年に初版が出された「授業技術入門」（東井義男著）から。

3年生を担当しているA先生の、「紙玉でっぼうはなぜとぶか」という素晴らしい授業に感心して、ある先生が、そのまねをしようと思いました。そして、見事に失敗しました。

その時、東井先生は、こう言いました。

「他人の授業をまねすれば、たいてい失敗するだろうな。あなたがまねして失敗するところか、A先生が、もう一度3年生を担当してあれを繰り返そうとするなら、多分、失敗に終わるだろう。授業というものは、そのとき、その場、その雰囲気、その教師、その子ども、その教材の中で、絶えず生み出し、創り出していく以外にないものだという気がするんだ。授業には既製品はないのじゃないか。」

「授業に既製品はない」。40年前のこの言葉は、昨年度まとめられた答申の「創意工夫に基づく指導方法の不断の見直し」に重なります。

私たちの先達は、優れた実践をいくつも残してきました。そして、多くの教師が、その実践をまねてきました。

ところが、その先生ならうまくいくのに、「私がすると、子どもたちが同じように反応しない」。なんとかその授業をこなせても、「他の單元では、どうすればいいの?」。結局、「他にいい方法はないのかなあ」といった思いが巡ります。型をまねるのではなく、授業づくりの考え方、教材の見方、子どもへの構えをこそまねるべきだったのです。

どのような素晴らしい実践、素晴らしい指導法も、その形だけをまねてしまうと、残されるのは、「〇〇先生の授業は素晴らしかった」「私たちには到底真似ができなかった」という伝説だけになります。私たちは、授業を見る者の一人として、伝説ではなく、伝統をつくっていかねばなりません。それが見る者の責任だと思えてきます。

本冊子は、県教育委員会が委嘱して授業公開をしていただいた先生方（総合授業リーダー）の実践を取りまとめたものです。

今年は、各授業をQ&A形式でまとめました。学んでほしいのは、実践の背景にある授業づくりの視点です。期待しているのは、それをいろいろな教科や單元等に應用していく創意です。そう考えたときに、答えは、先生方一人一人のこれからにあり、それは先生方一人一人が見付けていくものではないかと思っています。

最後になりますが、本事業に際し、力のこもった授業づくり・授業公開をしてくださった総合授業リーダーの先生方、運営等にご協力いただいた校長先生、教頭先生をはじめ各校の教職員の方々、その他関係者の方々に深く御礼申し上げます。

## Ⅱ 総合授業リーダーに学ぶ 授業づくり Q&A

発問・助言

高松市立林小学校 第1学年道徳「だれにでもやさしく」(鎌野珠緒先生)の実践に学ぶ

Q

授業づくりを考えるときに、どんな発問をすればよいか悩みます。よい発問のポイントは何でしょうか。

A

発問の言葉だけではなく、発問に向かうまでの学習や、その後の学習を工夫することで、発問は一層効果的になります。

### 具体的実践から

#### 1 子どもの実態、授業のねらいなどから、中心発問を考えること

授業者は、子どもたちに「相手の気持ちを考えられるようになってほしい」と考えました。そこで「はしの上のおおかみ」という題材で、中心発問を「クマを見送っているオオカミは、どんなことを考えたのでしょうか」と設定し、人に優しくするという点について考えを深めるようにしました。

「はしの上のおおかみ」のあらすじ

一本橋の上で、小さな動物たちと会うと「もどれ、もどれ。」といばるオオカミ。

ある日、オオカミは、自分より大きなクマとぶつかります。あわてて引き返そうとするオオカミをクマは抱き上げ、そっと自分の後ろへ渡してやります。オオカミは、クマが去って行く後ろ姿をずっと見送るのでした。

それからというもの、オオカミは、小さな動物たちに優しく接するようになりました。

#### 2 発問の前後の学習活動を工夫すること

発問は、その前後の学習を工夫することで一層効果的になります。

授業者は、中心発問の前に「最初、オオカミは意地悪をして楽しんでいたこと」、しかし「その気持ちが最後には変わっていること」を捉えさせました。その上で発問をすることで、子どもたちは「見送る場面で何か変わっているんだ」「どんなふうになるのかな」と、考えを進めることができました。その後、「優しくすると気持ちがよくなるのかな」と考え始めた子どもたちに、小さい動物に優しくするオオカミの役割表現をさせることで、自分の考えを確認し、納得へとつないでいきました。



### 「さぬきの授業基礎・基本」では

- ☆ 学習過程に沿って、精選し、計画的、意図的に発問する。
- ☆ タイミングよく、子どもの思考を方向付けるように助言する。 (P.3)

高松市立栗林小学校 第6学年社会科「世界に歩み出した日本」(仁科大成先生)の実践に学ぶ

**Q** 思考を深めるためには、どのような学習過程が大切になるのでしょうか。

**A** 思考を大きく「広げること」と「まとめること」と捉え、両方を行き来する学習過程を意識してみてもいいでしょうか。

具体的実践から

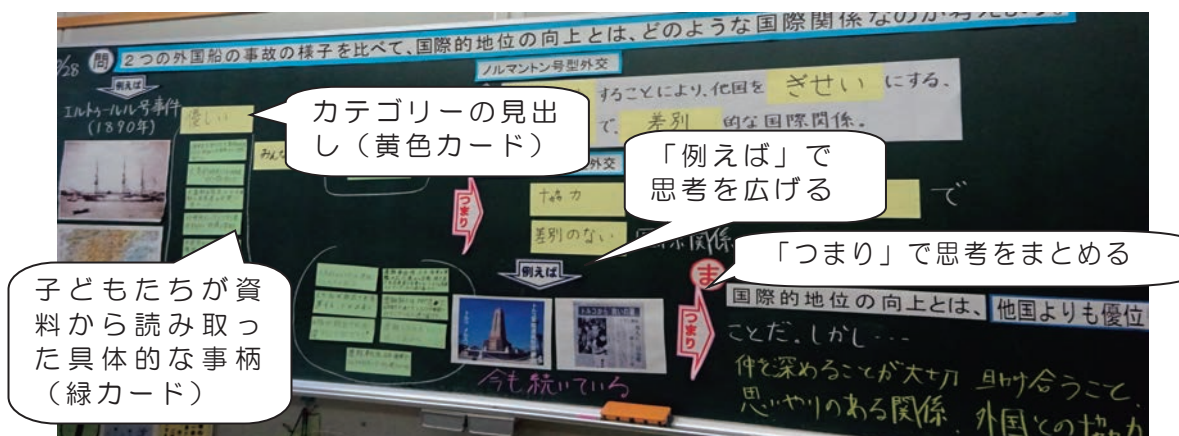
1 思考を広げること

本時、明治時代に起こった二つの海難事故\*を取り上げ、学習問題「国際的地位が向上するとは、どのようなことだろう」を追究しました。「どのような～」と問うことで、子どもたちは「例えば」という言葉を使いながら思考を広げていきました。

\*不平等条約改正への世論を作った「ノルマントン号事件」(1886年)と、日本とトルコの友好関係のきっかけを作った「エルトゥールル号遭難事件」(1890年)。

2 思考をまとめること

上記のように広がった思考を、次は「つまり」という言葉でまとめていきます。授業では、仲間分けをしてタイトルを付けたり、矢印でつないだりしながら、「当時の国際的地位の向上とは差別的な関係を解消すること。そのためには外国との協力や思いやりが大切」とまとめていきました。



【板書に見る、「広げる」と「まとめる」を行き来する学習過程】

「さぬきの授業基礎・基本」では

- ☆ 学習指導過程に沿って、精選し、計画的、意図的に発問する。
  - ・ 考えや思いを深めたり広げたりする発問を用意し、学習を発展させる。

(P.3)

高松市立桜町中学校 第1学年音楽科「合唱を楽しもう」(岡田誠司先生)の実践に学ぶ

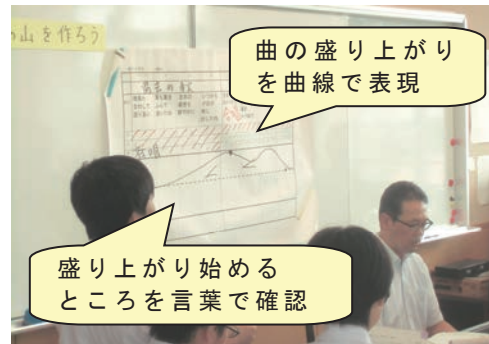
**Q** 子どもたちの想像力を刺激して豊かな表現につなぐことが難しいのですが、どのような手立てが考えられますか。

**A** 曲調やテンポを身近なものにたとえてイメージ化を促し、さらに、それを言葉で表すことで、全員が共有できます。

### 具体的実践から

#### 1 図や絵などでイメージを広げ、言葉で焦点を絞る

「曲の山をつくろう」というめあてに向かい、歌唱表現の工夫をしていきました。授業者は、曲の盛り上がりを視覚化して表したシートを用い、「山の頂上」を確認するとともに、「山はどこから登るの?」(教師)、「ふもと」(生徒)、「ふもとはどこ?」(教師)などのやりとりを通して、盛り上げ始める部分を全員で確認しました。漠然としたイメージを言葉で表すことで、歌唱のポイントが明確になりました。



#### 2 具体物を示し、体感させる

本時は、8分の6拍子の感覚を捉えさせるために大きな振り子を用いました(右写真)。そして、振り子の揺れるイメージをもって歌うように助言したり、また、隣の友達と手をつなぎ、振り子のように前後に振りながら歌うことで、その感覚を体感させたりしました。

さらに、歌声を「バイキング(遊園地のアトラクション)のよう」と評価しながら、拍子から外れてしまった声が聞こえたら、「バイキングからはみ出している子がいるよ。」とユーモアを交えながら合唱を仕上げていきました。



### 「さぬきの授業基礎・基本」では

☆ 学習を深めるよい発問の在り方

- ・ 広がり、深まり、方向付けがあること(想像を促すこと) (P.3)

さぬき市立さぬき南小学校 第4学年音楽科「旋律の重なりを感じ取ろう」（真鍋昌子先生）の実践に学ぶ



発問の後、子どもたちの反応がないと不安になり、ついつい教師がしゃべってしまうのですが…。



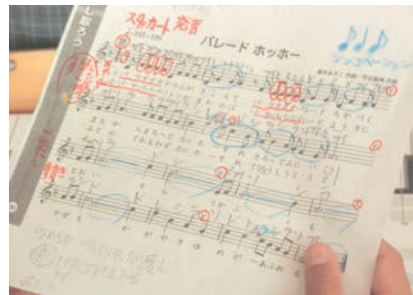
教師は事前に授業を考えていますが、子どもたちにとっては初めて尋ねられることです。考える時間を確保しましょう。

### 具体的実践から

#### 1 発問の後などの「間」を大切にする

考えるためには間が必要です。例えば、歌を歌い終わった後、子どもたちはすぐに隣の友達としゃべり、教師もすぐに次の指示を出しがちです。それよりも、歌い終わった後は静かな間をつくり、子どもたちも教師も、今歌った歌について振り返る時間としてはどうでしょうか。

本時の授業でも、歌の後の間を大切にすることで、子どもたちは「〇〇の歌詞のところであつられてしまった」「でも、旋律を重ねて歌ってみると何だか楽しくなってくる」と自分たちの歌を振り返りました。教師は、そこから、次の学習活動へとつないでいました。



【思いを書き込んだ楽譜】

#### 2 言葉を生む活動や体験を入れる

子どもの反応がないと、次々に言葉をかえて矢継ぎ早に問うのではなく、新たな気付きを生むような活動や体験を入れましょう。

本時は、もう一度、歌のポイントとなる部分を歌ったり、楽曲を再度流したりしていました。すると子どもたちは、「片方の旋律が伸びている時にもう片方の旋律が入ってきて、間がない感じ」「にぎやかになっている」など、新しい気付きを発表し始めました。



### 「さぬきの授業基礎・基本」では

#### 「間」は命！

発問や助言の後、「間」をとって考える時間を確保していますか。「間」は、子どもにより緊張感と考える必然性をもたせます。次から次に問いかけたり助言したりすると、子どもはじっくりと考えられなくなります。 (P.6)

**Q** 子どもたちが話し合いを進めている過程で、教師はどのように関わればよいのでしょうか。

**A** 話し合いの経過や結果を、子どもたち自身はどう捉えているのか、その思いを汲み取って支援につなぎましょう。

具体的実践から

1 子どもたち自身が話し合いの状況を判断する場の設定

授業者は「青赤筒」をグループごとに配り、話し合いが順調に進んでいたら青、困っていたら赤にして机の上に置くようにしました。言葉では「分かりません」と言い出しにくくても、このような教具を使うことで、自分たちの状況を表出しやすくなりました。

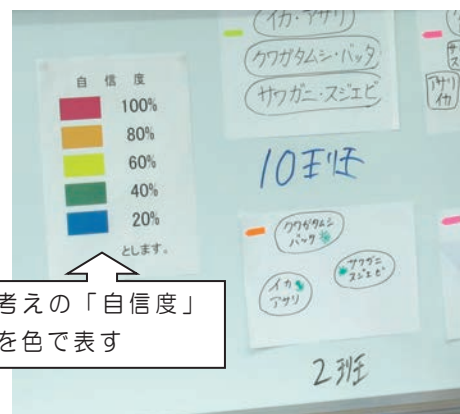
また、「青赤筒」により、教師は重点的に関わればよいグループを把握することができます。そして、このような取組の積み重ねにより、きっと子どもたちは、分からないことを分からないと言うことの大切さ、そして、それを経て学習が深まっていく充実感を学んでいくことでしょう。



【話し合いの状態を「青赤筒」で】

2 自分たちの考えの深まりを評価し、全体交流に生かす工夫

グループで話し合ったことを全体の場に出す際、子どもたちは、自分たちの考えに対する自信度を色で表すようにしました（右写真参照）。教師は、それを班の発表順を考えるなどの全体交流の支援に生かすようにしました。それにより、子どもたちに話し合いの深まりを感じさせることができました。



考えの「自信度」を色で表す

「さぬきの授業基礎・基本」では

- 個としての学びを共有することにより、集団としての学びを高めます。
  - ・ 協調的、探究的な学級の雰囲気ができる。 (P.6)



**Q** 子どもたちが道徳的な価値や自分の生き方について考えを深めていくためには、どうすればよいのでしょうか。

**A** 授業では、子どもの考えを思考の材料にすることが効果的です。また、長期的な視点で取組を継続することも大切です。

### 具体的実践から

#### 1 教師が、子どもの考えを揺さぶったり、発言を促したりする

右の写真は、「宿題をするのを忘れた友達に、あなたはどうする？」という問いについて、グループごとの考えを黒板に貼った場面です。

ここで授業者は、「答えを見せるとためにならない」という子どもたちに対し「2班は『見せてあげる』って言っているよ」と揺さぶったり、「先のことを考えていない」と言った子どもに対し「それってどういうこと？」と具体的な内容を求めたりしました。



【班ごとの考えをもとに】

正しい考えを押しつけるのでは、考えは深まりません。話し合いを通して、多様な考えを知り、自分を見つめ直していくことが大切です。

#### 2 長期的な視点で取組を継続する

板書の右端には、本時が何回目の道徳の時間かということが書かれていました。また、背面掲示には、子どもたちの心を育てる取組の跡が残されていました。年間を通して子どもたちを育てている授業者の姿勢が伝わってきました。

討議で授業者は「今日、授業をしたからといって、即、思いやりのある子どもになるわけではない」と話していましたが、このような取組の継続が道徳性の育成につながります。



【背面掲示から】

### 「さぬきの授業基礎・基本」では

☆ 発言を取り上げ、学級みんなのものにするのは、教師の役割

○ 発言に対して、意見を促す。

○ 発言者の考えを他の子どもの思考の材料にする工夫をする。 (P.6)

三木町立平井小学校 第2学年図画工作科「ざいりょうから ひらめき」(石田美千代先生)の実践に学ぶ

**Q** 子どもの反応を羅列するだけの板書になってしまいます。活動や思考を促すためには、どうすればよいのでしょうか。

**A** 板書を効果的に活用して、反応を導いたり、出された反応を広げたりする工夫をするとよいでしょう。

### 具体的実践から

#### 1 子どもの反応を導く

あえて空白の部分を残すことで、子どもはそこを想像しようとし、また、イメージを持たせにくいところでは、実物を提示することで具体的に考えを進めていけるようになります。例えば、材料の使い方を決める場面では、「(わたを) につかいたいな」と板書しました。すると、子どもは、黒板に貼られた綿の実物や、そこに残された「いい感じ」の言葉を手掛かりに、そこに入る言葉を考え始めました。



#### 2 反応を広げる

授業者は、子どもがつぶやいた言葉を拾い、他の子どもにその意味を投げかけていました。その上で、発言を板書に残すことで、そこからひらめいたり、考えが広がったりすることを促していました。

### 「さぬきの授業基礎・基本」では

- 板書の計画を立て、授業の流れや子どもたちの考えの変化が分かるように工夫しましょう。
- 子どもが参加する板書で、主体的な学習を進めましょう。 (P.8~9)

観音寺市立豊浜小学校 第5学年算数科「分数」(大山真器先生)の実践に学ぶ

**Q** どのようにすれば、自分で見通しを立てたり、振り返ったりできる子どもが育つのでしょうか。

**A** 振り返る観点をキーワードで示し、板書とノートをつないだり、活動の見通しを問いかけたりすることが大切です。

具体的実践から

1 「板書カード」の活用



本授業で用いられている「板書カード」は、左の写真のようなものです。「あ」は新しく分かったこと、「ま」は学び方、「と」は友達のよさ、「こ」は今度学習してみたいことを表しています。

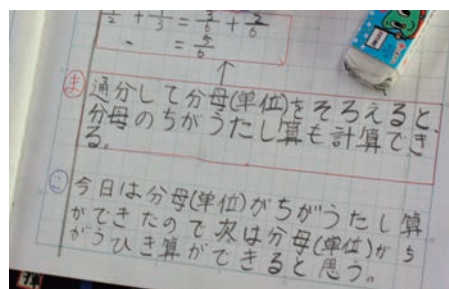
授業の終末には学習を振り返り、板書上の該当箇所に位置付けていました。教師は、このような振り返りを意識して、板書上に学び方や友達の考え方などを構造的に整理していました。



2 振り返りを促すノートづくり

ノートは、1時間で見開き2ページを使うようにし、板書と対応させながら、どこに何を書くかが決められていました。そして板書と同様、「あ」「ま」「と」「こ」を用いてまとめるようにしており、下の写真のように、それぞれの子どもが、自分の言葉でまとめていました。

このような取組の継続により、教師から「次はどうしたらいいですか」と問われた子どもたちは、学習を振り返りながら「通分」「マス図」「最小公倍数」など、解決方法の見通しをもつことができていました。



「さぬきの授業基礎・基本」では

- ・【板書】各教科等で共通の「自分の考え」「ポイント」「注意点」などを用いることで、考え方のモデルを示す。(P.9)
- ・【ノート指導】振り返りの時間を設け、新たに分かったことや考えの変化を確認することで、子どもが自分の成長を確かめられるようにする。(P.11)

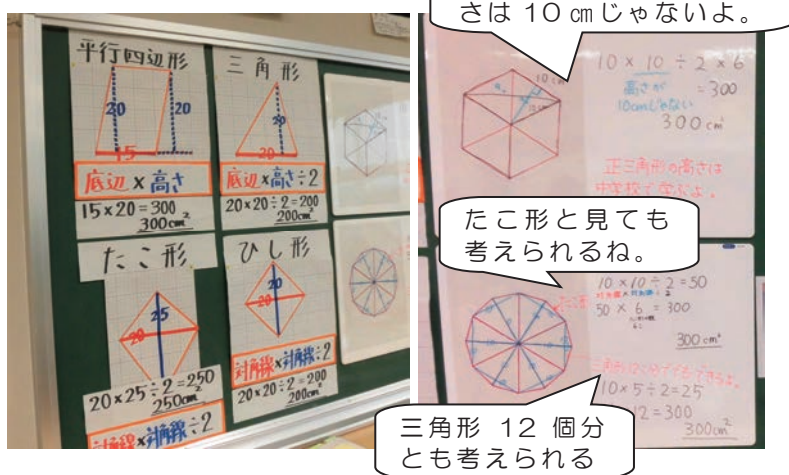
東かがわ市立引田小学校 第6学年算数科「円の面積」(谷口久美先生)の実践に学ぶ

**Q** 「考えてごらん。」と言われても、考えられない子どもがいます。どのような指導が大切なのでしょう。

**A** 子どもが学習を振り返り、考える手掛かりにできるような板書やノート指導を工夫してはどうでしょうか。

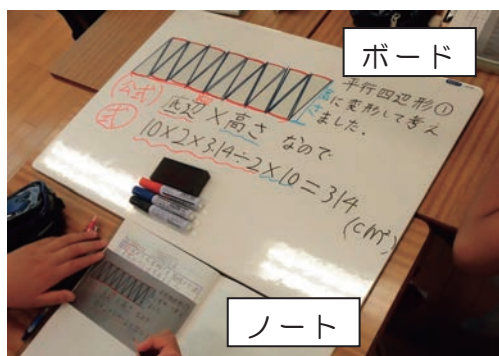
具体的実践から

1 振り返りのできる板書



これまでの学習の跡を背面黒板等に残し、円の面積の求め方を考える手掛かりとしています(写真左)。さらに、子どものつまずきや、考えるポイントも板書に残しています(写真右)。

2 ノート指導の工夫



前時の学習でボードに書いた図をコピーし、ノートに貼って置きました(左写真)。手掛かりが手元にあることは、子どもたちにとって見やすく、自分の考えを書き込むことも可能になります。また、家庭での振り返りにも生かすことができます。

「さぬきの授業基礎・基本」では

- ☆ 「板書の基本」これだけは大切にしよう。
- 板書の計画を立て、授業の流れや子どもたちの考えの変化が分かるように工夫しましょう。
- 子どものノートを意識して書きましょう。 (P.8)

綾川町立陶小学校 第6学年社会科「町人の文化と新しい学問」(青木弥生先生)の実践に学ぶ

Q

子どもたちの話し合いの場を設定しても、自分の考えを言うだけでなかなか深まりません。どうすればよいのでしょうか。

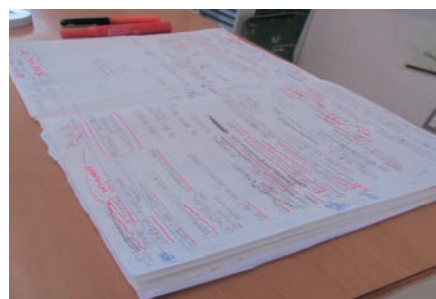
A

子どもたちの反応を想定し、支援を考えておくとともに、それぞれの考えや、考えるポイントを視覚化するようにします。

### 具体的実践から

#### 1 子どもの反応を予測する

話し合うのは子どもたち。しかし、子ども任せでは、学びは深まっていきません。この授業では、考えさせたい資料を精選し、それを根拠として子どもたちがどのような反応をするかを想定し、ねらいに迫れるようにしていました。その背景には、綿密な教材研究がありました(右写真は、教材研究ノート)。



#### 2 話し合いの仕方を工夫する

子どもたちの話し合いが深まっていくように、一人学びとグループ学習とを効果的につないでいくことが大切になります。授業者は、「付箋に自分の考えを書く→画用紙にグループの考えをまとめる」という活動を繰り返し設定し、学び方を育てていました。また、それぞれのグループに関わりながら、板書とつないで考えるよう促していました。その板書には、キーワードを黄色の文字で示し、考える手掛かりを得られるようにしていました。



### 「さぬきの授業基礎・基本」では

☆ グループ学習の効果を高める手立てを用意する。

- 目的、活動の流れ、話し合っている話題、行っている作業などを、黒板やメモに書いておくことで、今やっていること、これからすることを、目に見える形で示します。(P.12)

## 琴平町立琴平中学校 第1学年保健体育科「なぎなた」(若井奈美先生)の実践に学ぶ

Q

子どもたちが「友達とがんばりたい」と思うようになるためには、どのようなことに気を付ければよいのでしょうか。

A

協働的に学ぶことで理想の姿に近付くことができるという見通しをもたせることを心がけましょう。

## 具体的実践から

## 1 共に理想の姿に向かうための課題の明確化と、協働の場づくり

本時は、自分たちのなぎなたの集団演技を動画で撮影し、理想の動きと現実との差に気付かせました。子どもたちは、普段の授業を通して動きがそろそろ気持ちよさを体験的に学んでいるため、「動きをそろえたい」という意識が一層高まりました。

そして、グループでさらに高めていけるように、各グループにはリーダー的な存在の子どもを配置するとともに、他のグループの動きを随時参考にするようにすることで、活動への意欲がますます高まっていきました。



【タブレットで動画を撮影】

## 2 発表の場の設定

この学校では、毎年、運動会でなぎなた部が演技発表をしたり、全校集会でリズムなぎなたの演技発表をしたりしています。子どもたちはそれを目指し、なぎなたの授業を大変楽しみにしているそうです。

また、上級生の「なぎなた発表会」を学校だよりに掲載しているそうです。このように、授業と学校行事、先輩と後輩をつなぐことが、仲間と共に頑張る姿を一層強くイメージさせるのでしょうか。



【上級生の「なぎなた発表会」を掲載した学校だより】

## 「さぬきの授業基礎・基本」では

- なぜグループで学習するのか、そのねらいを子どもたちと共有しておきましょう。
- ・ 教師の手が直接届かない時間・空間を意図的に設けることで、子ども同士の学び合いの力を引き出すことができる。(P.12)

**Q** 子どもたちが「友達の考えを聞きたい」と思うようなグループ学習にしたいのですが、どうすればよいでしょうか。

**A** 「友達は自分の知らないことを知っていそうだ」という期待感をもたせるように学習過程を工夫するとよいでしょう。

具体的実践から

1 話し合いの目的を共通理解すること

何について明らかにしようとしているのかを共通理解することが、まず大事です。目的が曖昧だと、話し合いの方向性が定まらなかったり深まらなかったりして、話し合うこと自体への意欲が薄れることになってしまいます。この授業では、常に「菅原道真はどのような国づくりを目指したか」という学習問題に返りながら資料を読み取っていました。

2 個の興味・関心に応じて、子どもが選択する場を設定すること

本時は、課題解決に向けて、グループの一人一人がそれぞれ異なる資料を選択し、調べていました。各自の調べ学習の後、グループでそれらを出し合いました。友達は自分とは違う資料から考えているということから聞き手の意欲も高く、話し合いが活発に進んでいきました。



讃岐国の国司として、民衆の暮らしから政治の在り方を考えたよ。

その頃、唐の勢力はしだいに衰えていったみたいだよ。

道真は、左遷された後に財政を立て直そうとしているよ。

当時は藤原氏が力をもっていた。それを押さえられるのは道真しかいなかったんだ。

【各自が調べたことをグループに持ち寄る】

授業後の子どもたちは、「同じ事象でも立場を変えて見ることによって違った捉え方ができる」と、話し合いの価値を実感していました。

「さぬきの授業基礎・基本」では

- グループ学習
  - ・ グループ学習の目的を確認する。
  - ・ 異質な考えをもった少人数のグループを、教師が編成する。 (P.13)

三木町立三木中学校 第2学年数学科「図形の調べ方」(山下光先生)の実践に学ぶ

**Q** 問題解決に困っている子どもに、すべて教えてしまいがちになります。どのような指導を心がければよいでしょうか。

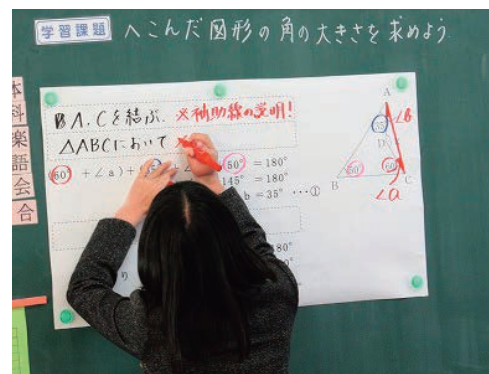
**A** 教えるべきことはしっかりと教えましょう。しかし、全て教えるのではなく、自力で考える場のある授業にしましょう。

### 具体的実践から

#### 1 教えることで「できそうだ」という見通しをもたせること

特殊な四角形の角の大きさを考える際、本実践ではまず1問、教師が解法を提示しました(右写真)。解き方の例を示すことで、2問目からの自力解決につながっていきました。

さらに自力解決で困っている子どもには、机間指導の際、ヒントとして1本だけ補助線を書き入れるとともに、同じ考え方の子どもとグループにするようにしました。このような支援により、苦手な子どもも、発表ボードに自分の考えをまとめることができました。



【一つの解法を提示】

#### 2 ヒントカードの内容を工夫すること

ヒントカードが答えに近すぎると自力解決の力は育ちません。本時、授業者が用いたのは、既習事項をラミネートしたヒントカードでした。本時の授業は、常に既習事項を活用して本時の解決につなぐという姿勢が貫かれており、子どもたちの思考の場を保障していました。



【既習事項をヒントカードに】

### 「さぬきの授業基礎・基本」では

☆ グループ学習の効果を高める手立てを用意する。

- 目的、活動の流れ、話し合っている話題、行っている作業などを黒板やメモに書くことで、今やっていること、これからすることを、目に見える形で示します。

(P.12)



高松市立太田中学校 第2学年美術科「絵画の可能性」(築地緑先生)の実践に学ぶ

**Q** 話合いのおもしろさを子どもたちに感じさせるには、どうすればよいのでしょうか。

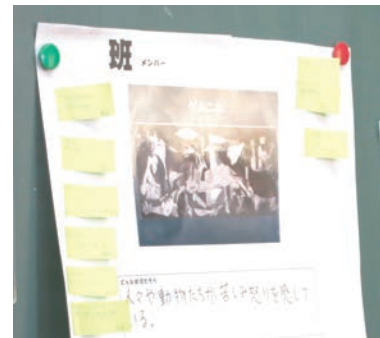
**A** 自分とは違う考えや、自分にはない考えを大切にしながら学びが深まっていくことを伝えるようにしましょう。

具体的実践から

1 子どもなりの第一印象や直感を大切にする

本時の学習課題は、「ピカソの作品を通して、作者の思いを感じ取ろう」でした。その解決に向けて、まず絵の中から見付けたものや気持ちを付箋に書き出しました。

授業は、その一人一人が書き出した付箋をもとに進んでいきました。最初の考えが残され、その後の学習に取り入れられていく。それは、その子どもの考えが大切にされているということに他なりません。多様性を認め、生かしていく授業づくりが大切です。



【付箋をグループで集約】

2 最初の考えが変容していくように学習過程を考える

最初の考えを高めていくために、ピカソの二つの作品を比べる場を設定しました。そして、グループ交流により、多様な考えと出合えるようにしました。

交流により、例えば、最初は「ゲルニカ」の絵を「よく分からない」と言っていた子どもが、「『牧歌』は幸せな雰囲気、『ゲルニカ』は苦しみ、怒りを感じ、戦争なのかも」と考えを深めていました。



【二つの作品を比べてみると】

「さぬきの授業基礎・基本」では

☆ グループ学習によって効果が上がる学習場面を選択する。

<学習場面例>

- ・ 多面的な思考が可能であったり、多様な解釈が必要であったりする場面
- ・ 多くの発想を出させたり、発想の質を高めたりする必要がある場面 (P.12)

さぬき市立志度小学校 第5学年理科「もののとけ方」（新開宏典先生）の実践に学ぶ

Q

子どもがたくさんのお考えを出した後、どのように授業を進めればよいのか、その一例を教えてください。

A

まず、多様な意見を仲間分けして整理しましょう。そして、さらに考えを深めるための手立てを準備しておきましょう。

### 具体的実践から

#### 1 カードなどを活用して意見を把握し、仲間分けに役立てる

本時は、溶けた食塩がもし見えたとしたら、水のどこにあるのかを予想する際に、個々にイメージ図に表しました。右の写真は、それらを黒板に出し合い、整理している様子です。子どもたちと確認しながら、図は多様でも、「下の方にたまる」「上の方にある」「全体に広がる」の三つに大別されることを押さえました。



【子どもたちのイメージ図を整理する】

#### 2 子どもたちの認識をさらに深めるための手立てがある

溶けた食塩がどこにあるのかを予想しても、それを確かめる術を子どもたちは十分にもっていません。

そこで授業者は、色の付いた入浴剤で同様に実験をすることで、「溶ける」とはどうなることかを認識できるようにしました（右写真）。子どもたちは、色が全体に広がっていく様子を真剣に見つめていました。



【色付きの入浴剤ではどうなるのか？】

### 「さぬきの授業基礎・基本」では

☆ 子どもの課題意識を高める。

○ 課題解決のために取り組む学習活動を明確にします。

(P.14)

善通寺市立吉原小学校 第5学年家庭科「わくわくミシン」(藤田直代先生)の実践に学ぶ

Q

子どもに考えさせるよりも、教師が教えた方が効率的なのではないでしょうか。

A

じっくりと考えたり、何度も繰り返したりしながら身に付けた知識・技能は、子どもたちにしっかりと残っていきます。

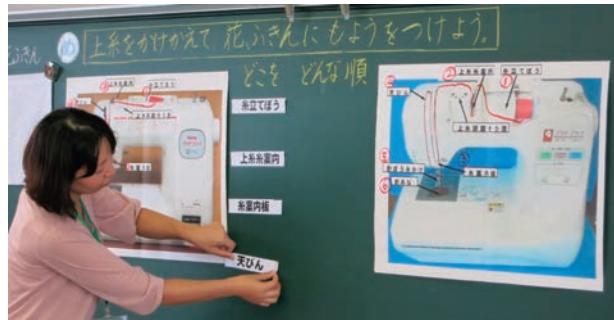
### 具体的実践から

#### 1 友達と学び合いながら考えを確かにしていくこと

授業者は、グループごとに違う種類のミシンを用いるようにしました。

まず、子どもたちはグループで一つのミシンについて上糸のかけ方を調べました。次に、各グループで調べたことを黒板に出し合い、上糸のかけ方の共通点を探りました。

自分たちの考えが黒板に整理され、さらに友達の考えと比較するという「考える」過程を通して発見した知識は、しっかりと子どもの中に残ります。



#### 2 意欲をもって何度も繰り返すこと

ただ「やりなさい」と繰り返させる受け身の学習では、知識や技能は身に付きにくくなります。

被服教材では、よくエプロンを製作しますが、本時は「花ふきんに模様をつける」という、よりシンプルな活動を設定しました。シンプルにすることで、子どもたちは「上糸を替えて、いろいろな色でミシン縫いをしたい」と、工夫したいことが明確になりました。色の工夫は端的に作品に現れるため、子どもたちは上糸をいろいろと替えて試してみようという意欲が高まり、そのための技能が身に付いていきました。



「さぬきの授業基礎・基本」では

☆ 子どもたちの課題意識を高める。

○ 課題解決のために取り組む学習活動を明確にします。

(P.14)

坂出市立金山小学校 第6学年理科「動物の体のはたらき」(藤川直人先生)の実践に学ぶ

Q

抽象的なことや、実際に見ることができないものについて考えさせることが難しいのですが。

A

身近な物事に置き換えて考えたり、考えを図などに表して友達とイメージを共有したりしてはどうでしょうか。

### 具体的実践から

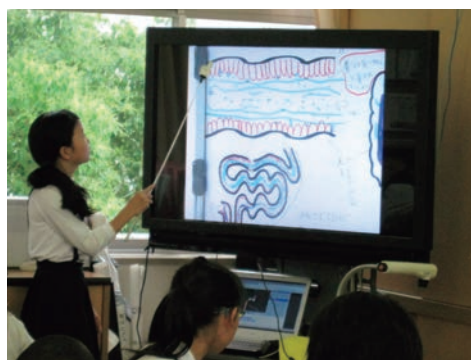
#### 1 小腸を身近なもので表すと

小腸のはたらきを考える授業で、授業者は、筒状にしたバスマットを小腸に見立て、「小腸の中は、こんな感じになっているんだよ。」とそれを開きました(右写真)。その無数の突起を見た子どもたちは、「このぶつぶつが水をたくさん吸い取るんだよ。」「あっ、だから小腸はたくさんの養分を吸い取ることができるんだ。」とその形状とはたらきに着目しながら学びを深めていきました。



#### 2 考えたことを表現、そしてイメージの共有へ

小腸のモデル(バスマット)や写真を手掛かりに、子どもたちは小腸の中をイメージ図で表しました。それをグループで見せ合ったり、書画カメラで拡大して提示したりしながら、見えない小腸の様子イメージを共有し、そのはたらきについての理解を深めていきました。



### 「さぬきの授業基礎・基本」では

☆ 子どもの課題意識を高める。

- 考えたい課題や考える必要感のある課題を子どもが見付けるように、考えるきっかけとなる教材(事実やデータなど)提示の仕方を工夫します。

(P.14)

**Q** 言葉を大切にすることを育てたいと考えています。どのような取組ができるでしょうか。

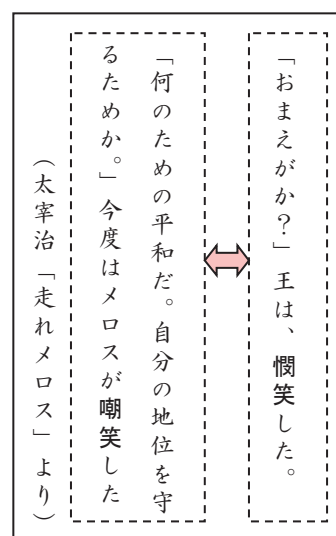
**A** 言葉のニュアンスの違いを話し合ったり、その言葉があることでどんな効果があるのかを考えたりすることが有効です。

具体的実践から

1 類似した言葉との違いを考える

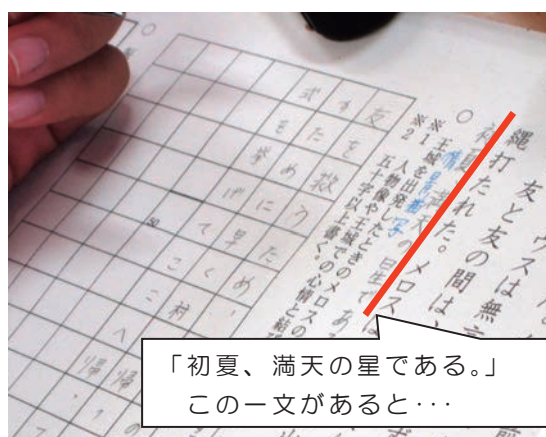
「走れメロス」には「憫笑(びんしょう)」と「嘲笑(ちようしょう)」という類似した表現があります(右参照)。本実践では、この二つの語の違いを文脈から想像させたり、表情で表現させたりしました。また、メロスの心情を想像する中で子どもが発した「私を信じてくれ」と「私を信じてほしい」の文末の違いについて考えさせる学習場面もありました。

物語や小説の学習を、言葉の辞書的な意味だけではなく、言語感覚を豊かにする格好の機会と捉え、指導の充実を図っていきましょう。



2 その言葉がある時とない時とで比べる

「走れメロス」には、「初夏、満天の星である」という情景描写の一文があります。本時は、それを省いたワークシートを提示し、その文がある場合とない場合とを比較することで、情景描写のもっている意味に迫らせました。これは、読みとばしがちな言葉を再認識させる有効な手立てであると言えます。



「さぬきの授業基礎・基本」では

☆ 「考える力」を育成するための言語活動を充実する。

<例1>比較 二つの事象を比較して異同を考える。

(P.15)

## 丸亀市立西中学校 第2学年数学科「平行と合同」(岡田美江先生)の実践に学ぶ

Q 考えることの苦手な子どもに考える意欲をもたせるためには、どうすればよいのでしょうか。

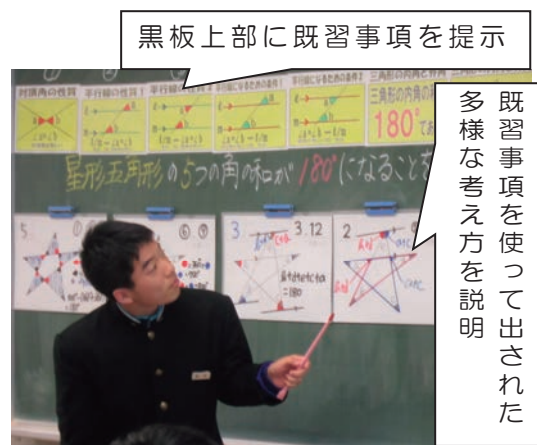
A 自分たちが積み重ねてきたことや、自分の得意な学習の仕方を生かしながら考えを深めていくようにしましょう。

## 具体的実践から

## 1 これまでの学習の積み重ねが見える教室環境に

実践では、「平行線と角との関係」「三角形の内角と外角との関係」など、既習事項を黒板の上部に提示していました。子どもたちは、解決に役立ちそうなものを選び、多様な考え方につないでいました。

それぞれの考え方を説明する際には、どの既習事項を用いたかを必ず述べることを学習の約束としていたため、子どもたちは、学習を積み重ねることの大切さとその有用感を感じながら解決に向かっていました。



## 2 子どもたちが好む学習の仕方を把握して

本学級はグループで考える授業を好む子どもが多いため、授業者はその実態を生かして学習過程にグループ学習を組み込みました。そして、うまく話合いが進んでいないグループにはヒントカードを渡して考える手掛かりとさせるなど、グループ学習の達成感を味わえるような支援を行っていました。



【一つの考え方をめぐって】

## 「さぬきの授業基礎・基本」では

- ☆ 子どもが自分の考えを表現する場を設定する。
  - 今までに学習した方法が使えないか振り返るよう助言します。
  - 自分の得意な方法で表現するよう助言します。 (P.14)

まんのう町立満濃中学校 第3学年技術・家庭科(技術分野)「プログラムによる計測・制御」(佐藤淳先生)の実践に学ぶ

Q

考える力を育てたいのですが、課題が難しいと子どもたちの考える意欲が低下してしまいます。よい手立てはありますか。

A

思考すべきことを絞り、スモールステップで易から難への階段を少しずつ登っていくようにしましょう。

### 具体的実践から

#### 1 思考すべきことを絞る

通常、本題材では、実際にセンサーカーを動かしながらパソコンでプログラミングを行います。しかし本時では、複雑なプログラミングの前に、ワークシート上でマス目を用いて簡易的に駒を走らせることで、フローチャートを考えさせ、正しいかどうかを考察させました。

また、できるだけグループで話し合いをし、子どもたち同士で工夫してよりよいものを考える雰囲気高めるために、本授業では、あえてパソコン教室を使わずに技術教室で授業を行いました。

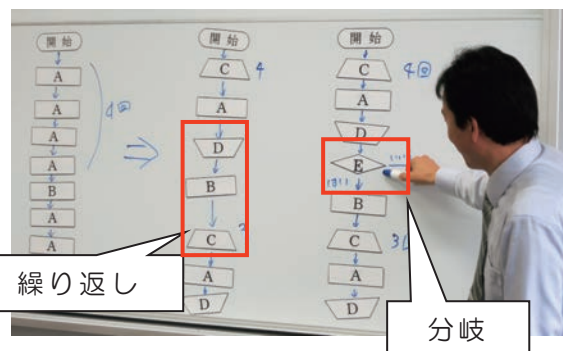
その結果、子どもたちは駒の動きに集中し、友達と考えを出し合いながらフローチャートを考えることができました。



【ワークシート上でフローチャートを考える】

#### 2 スモールステップで学習する

最初は前時までの復習となるフローチャート。続いて、繰り返しを用いたフローチャート。そして「分岐」を用いたフローチャートというように、先に学んだことを生かしながら、次の学習に生かすようにしていました。学びの足跡は、ホワイトボードにもきちんと残されていました。



「さぬきの授業基礎・基本」では

☆ 子どもの課題意識を高める。

○ 課題解決のために取り組む学習活動を明確にします。

(P.14)

丸亀市立垂水小学校 第2学年生活科「おもちゃまつりをひらこう」(中明子先生)の実践に学ぶ

Q

発表したがない子どもや、言いたいことが見付けられない子どもがいます。どのような手立てが考えられますか。

A

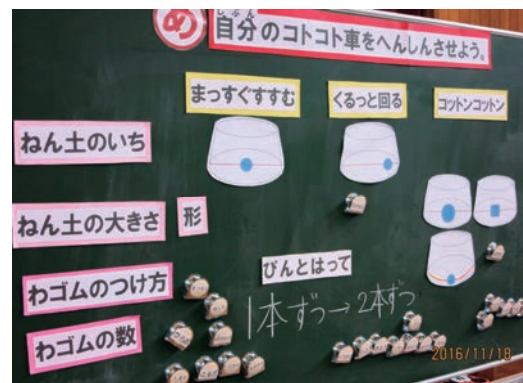
より多くの子どもが活躍する場をつくり、活動や体験を通して得た気づきを言葉につなぐようにしましょう。

### 具体的実践から

#### 1 より多くの子どもが活躍する場をつくること

子どもたちは、ゴムの力で粘土玉を回して進む「コトコト車」作りに取り組みました。このような動く車を作ると、子どもたちは「速さ」や「距離」を競いがちになります。

そこで授業者は、いろいろな動きを取り上げ、その面白さを価値付けるようにしました。まっすぐ進む車、くると回る車、揺れながら動く車など、多様なよさが認められた子どもたちに、「言いたい」という気持ちが高まりました。



【いろいろな動きとそのひみつをまとめた板書】

#### 2 活動や体験を通して気づきを生むこと

いろいろな動きとそのコツを知った子どもたちは、それを自分のコトコト車に取り入れていきます。活動や体験を通して試行錯誤しながら自分が発見したことは伝えたくくなります。

子どもたちは、「ゴムが1本だと弱いから、2本にしたら動いたよ」と気づきを言葉にしたり、「粘土玉が大きくて重いから、小さくした方がよく動くよ」と友達に教えたりしました。



【試行錯誤する子どもたち】

### 「さぬきの授業基礎・基本」では

子どもたちが、のびのびと活発に「話し合い活動」を行う為には、自分の発言を肯定的に受け止めてくれる学級の雰囲気が必要です。

自分の意見をもてば、話したくなります。

(P.17)



高松市立弦打小学校 第3学年国語科「しかけのある物語を紹介しよう」(山地貴子先生)の実践に学ぶ

Q

発表の苦手な子どもに「話し合う力」を育てるために、どんなことを大切にしたらよいでしょうか。

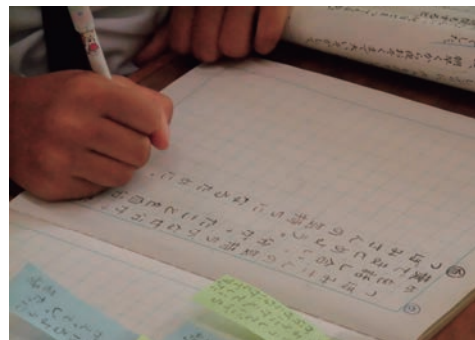
A

少しでも自信をもって発表できるように、考えを書く時間を確保したり、発言への意欲を育てたりすることが大切です。

### 具体的実践から

#### 1 考えを書く習慣を

日々の授業の中に書く活動を位置付けていました。㊦（めあて）や㊧（自分の考え）など、どの教科等の学習でも継続して行うことで、着実に書く力、考える力の伸長が図られるでしょう。書くことで自分の考えが見えると、発言への抵抗感は少なくなるでしょう。



#### 2 発言への意欲を育てる

子どもたちが自分の考えを書いている間に、机間指導により一人一人の子どもに応じた声掛けをしていました。考えのもてていない子どもには考えるヒントを与えるとともに、考えを書いている子どもの考えを価値付けていました。話合いで頑張った子どもを称賛する前に、話し合おうとする子ども、頑張ろうとする子どもを育てていました。



### 「さぬきの授業基礎・基本」では

考える時間が足りない → 5分の説明よりも、1分の沈黙で自分の意見をもつ時間の確保をしてみましょう。

自分の発言に自信がもてない → 安心感と自信をもてるように、教師が子どもの発言にうなずいて（肯定的表現）みましょう。

(P.17)

三豊市立仁尾小学校 第5学年道徳「自分が決めたことだから」(鱗目敦子先生)の実践に学ぶ

Q

子どもたちは活発に話し合うのですが、より深まる話し合いにするためには、どのような方策が考えられますか。

A

話し合いの仕方を育てること、そして、子どもの思考を一押しする教師の出番を考えておくことが大切です。

### 具体的実践から

#### 1 友達の考えとの異同を明確にしなが話し合う力を育てること

「Aさんは…と言ったでしょう？ 私は…」と子どもたちが話し合いをつないでいました。友達はどんな考えをもっているのかという他者理解を深めながら、道徳的価値に対する自分の考えを確かなものにしていきました。



【発表者に聞き手の目が集まる】

#### 2 思考を深める発問を考えておくこと

資料「昼休み」には、主人公のけんたろうが、昼休みを学級で取り組むリレーの練習に使うのか、大好きな将棋大会の練習に使うのか迷う姿が描かれています。どちらも、けんたろうが自分でやろうと決めたことであり、子どもたちも判断に迷いました。

そこで授業者は、「父の言葉（自分でやろうと思ったことはがんばるようになってきたか）は、最初と最後の場面で出てくるが、同じかな？」と発問しました。この発問により、子どもたちは、「最初の場面の『やろうと思ったこと』は、自分がやりたい将棋のことを指し、最後はみんなですると決めたりレーのことを指している」ということに気付かせていきました。質の高い発問が、子どもたちの学びを深めました。

### 「さぬきの授業基礎・基本」では

- ☆ 聞くことから始める。
- ☆ 話し合いの課題を明確にする。
  - ・ 話し合いたくなるような具体的で分かりやすい課題を設定しましょう。

(P.17)

高松市立高松第一小学校 児童会活動（植原真弓先生）の実践に学ぶ

**Q** 学級活動や児童会活動で、子どもたち同士で話し合いが進められるようにしたいのですが。

**A** 継続して話し合いの仕方を指導すること。そして、話し合い後には、子どもたちのがんばりを適切に評価することが大切です。

具体的実践から

1 指導の積み重ねが見える！

子どもたちの力で、議題に沿った話し合いを進めることができている、継続的な指導の大切さがうかがえました。

例えば、グループ活動において司会者は、「①意見を出し合う→②意見を比べる→③まとめる」という過程を意識して話し合いを進めていました。①では「〇〇さんはどう思う？」と意見を広げたり、②では、「両方の考えを合わせたものはできないか」と投げかけ、③につないだりしていました。



【ホワイトボードを活用した話し合い】

2 話し合いの後は

話し合い後、教師は本時の話し合いを次のような点から評価していました。

- ① 聞き方や発言のつなぎ方、折り合いのつけ方などのスキルについてよかったところを具体的に称賛
- ② 目的に沿った話し合いであったか、各学年の児童の立場に立った意見が言えたかななどについての評価
- ③ 提案からのがんばりを労い、充実感・満足感を味わわせる言葉かけ

「さぬきの授業基礎・基本」では

教師が話し合うことの大切さを、きちんと認識することが大切です。

話し合うことの効果

- 授業に主体的に取り組めるようになる。
- 話すために、相手の言うことをよく聞く態度が育つ。 など (P.16)

さぬき市立さぬき南中学校 第2学年理科「電流の性質」(有岡博祥先生)の実践に学ぶ

Q

子どもたちが話し合うべきことを明確にもち、考えを深められるようにするためには、どうすればよいでしょうか。

A

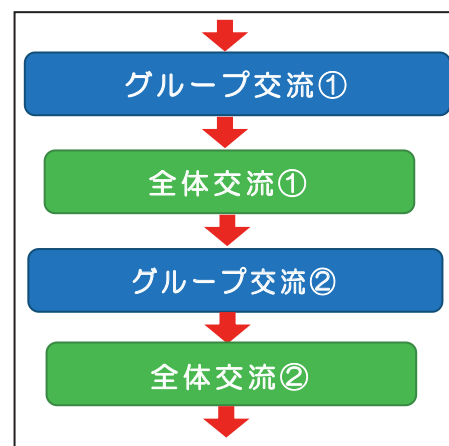
多様な考えを出し合い、その違いに着目して話し合いを進めていくようにするとよいでしょう。

### 具体的実践から

#### 1 多様な考えと出会い、自分の考えと比べる場を設定する

本時は、提示された条件で最も発熱量の高い回路をグループで考えた後、それを全体で出し合い、交流しました。友達の考えと出合うことで、「回路のこの部分が他のグループと違う」「そこをもう一度話し合ってみよう」と、次に話し合うべきことを明確にもつことができました。

その上で、再度グループで交流する場を設定し、自分たちの考えを振り返って確認したり、修正したりするようにしました。



【学び合いの場を効果的に設定】

#### 2 情報を整理し、考えの違いに着目できるようにする

全体交流①(上図参照)においては、授業者が、「同じ考えはまとめると分かりやすいね。」と言いながら、グループから出されたボード(グループの考えをまとめたもの)を板書上で整理しました。

それを見た子どもたちは、全体交流②では、自分たちのボードの置く場所を考えながら、黒板に貼ることができていました。

このように、友達と自分との考えの違いに気付く力は、自分の考えを見つめ直すという大切な学びを支えます。



【考えの異同に着目する子どもたち】

「さぬきの授業基礎・基本」では

話し合うことの効果

○ 相手の話によって、自分の意見を修正する力がつく。

(P.16)

坂出市立東部中学校 第2学年学活「話し合い活動を通して、坂出の町の活性化を考えよう」(藤川由香先生)の実践に学ぶ

Q

自分のこととして考え、話し合うために、どのような支援が考えられますか。

A

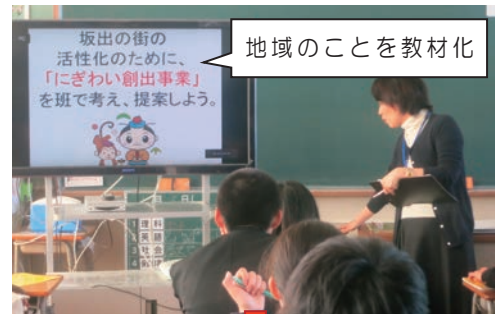
身近な話題を教材化し、話し合いでは一人一人の考えが活かされていくような手立てを考えましょう。

### 具体的実践から

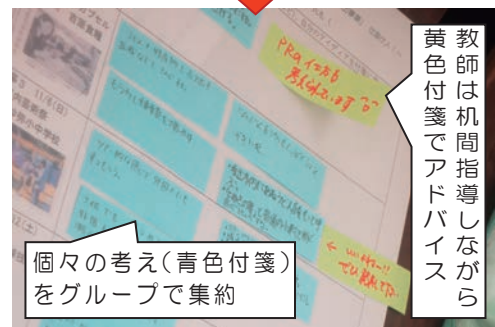
#### 1 身近な題材の教材化

本実践では、市の「にぎわい創出事業」を題材に、地域社会への提言を考えていきました。地域の取組が紹介された新聞を積極的に授業に取り入れており、子どもたちは街の様々な取組を参考にしながら、自分のこととして話し合いました。

また、本時の導入で伝えた「みんなの力が必要」という市職員の方からのメッセージが、地域と子どもたちをつなぎ、話し合いへの意欲を高めました。



地域のことを教材化



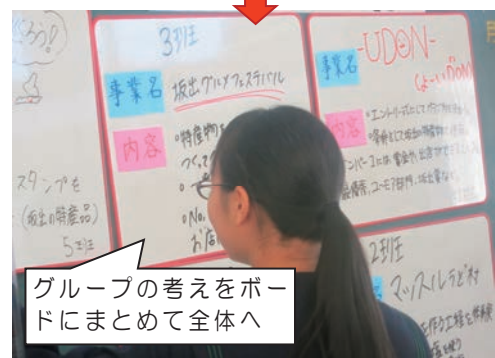
個々の考え(青色付箋)をグループで集約

教師は机間指導しながら黄色付箋でアドバイス

#### 2 一人一人の考えを生かす学習過程

子どもたちは、まず自分の考えを付箋紙に書き、グループのワークシート上で分類しました。さらに、それをもとに、グループの考えをまとめていきました。

この過程を経ながら、「だんだん案が形になってきたね」と話し合うよさを実感したり、「この案だと、商店街の通り道が狭くなるんじゃないの?」と実際の場を想定したりするなど、自分のこととして考えをつくっていました。



グループの考えをボードにまとめて全体へ

### 「さぬきの授業基礎・基本」では

#### ☆ 話し合いの課題を明確にする

自分の意見をもてば、話したくなります。でも、何を考えればよいか分からなければ、自分の意見をもつことはできません。話し合いたくなるような具体的で分かりやすい課題を設定しましょう。

(P.17)

綾川町立綾上小学校 第1学年国語科「たのしんで よもう」(植田量子先生)の実践に学ぶ

Q

1年生で文章を読んだり、話し合いをしたりするとき、どのようなことに気を付ければよいのでしょうか。

A

音読を聞き合ったり、いろいろな友達と話し合ったりしながら、読む楽しさ、交流する楽しさを十分に味わわせましょう。

### 具体的実践から

#### 1 音読する時間の確保

物語を声に出して読んでいると、自然と物語に入り込み、登場人物と同化していきます。本学級の子どもたちも、「だって、それは、いちばん好きなものでしょう。」「ありがとう。ほんとうにありがとう。」など、自然に心を込めて表現していました。一斉に読んだり、ペアで読み合ったりしながら、子どもたちは集中して何度も読んでいました。



#### 2 友達と交流する場の確保

本時は、①班の中で、②同じ登場人物を選んだ友達と、③音読グループで、と相手を替え、たくさんの友達と話し合いました。最初はくまの気持ちを、「大好きな貝殻を、うさぎさんにあげようかな。どうしようかな。」と考えていた子どもたちでしたが、交流の中で、「一番好きな友達には、一番好きなものをあげよう」という友達の発表を聞き、「大切なものだから、あげるんだ。」と言うくまの気持ちに迫っていました。



### 「さぬきの授業基礎・基本」では

- 子どもが活躍できる場はありますか？
  - ・話を聞くばかりは嫌（活動欲求）→実験、実習、体験学習の導入
  - ・友達と一緒にやりたい（親和欲求）→ペア・グループ活動、子ども同士の教え合い活動（P.20）

高松市立香南小学校 第3学年体育科「片足フワッ・トン・タン・ピタッと着地」(谷口弓恵先生)の実践に学ぶ

Q

一人一人の子どもが意欲的に活動し、達成感を味わうようにするためには、どのような手立てが考えられますか。

A

子どもたちが練習方法を選択できるようにしたり、教師が個々の成長を称賛したりすることなどが考えられます。

### 具体的実践から

#### 1 子どもたちが自分の課題に応じて練習方法を選択できるようにする

本時は、開脚跳びや台上前転を行う際に大切になる三つの局面（①体の投げ出し感覚、②支持感覚、③腕を支点にした体重移動）の中から、子どもたちは、自分の課題に応じた場を選んで練習しました。

その際、同じ課題の友達とペアになり、互いにアドバイスし合うようにしました。ペアの友達が上達する過程を見た子どもは、「Aさんは、最初、〇〇だったけれど、こんなに上手にできるようになったよ」と自分のことのように喜んで報告していました。



【課題に応じた練習の場を設定】

#### 2 一人一人の成長を捉えて称賛する

授業の終末に授業者は、「この前の時間まで〇〇だったのに、上手になったね」「今朝の道徳の『さかあがり』(※資料名)の勉強でも『応援があったからがんばれた』などの意見があったけど、まさにそう感じたんだね」など、子どもの実態や経験に即して適切な言葉かけをしました。「先生がぼくのがんばりを見てくれた」という喜びは、必ず達成感や次への意欲につながっていくでしょう。



【振り返りでがんばりを称賛】

### 「さぬきの授業基礎・基本」では

子どもの実態を的確にとらえる。

- 意識調査などを活用する。
- これまでの授業記録などを活用する。
- 連絡帳や生活記録を活用する。
- 日常の生活記録などを活用する。

(P.18)

東かがわ市立引田中学校 第1学年国語科

『人間の生活と生き物や環境との関係』について交流会をしよう(安富洋美先生)の実践に学ぶ

Q

子どもたちは、馴染みの少ない学習内容の時に意欲をなくしてしまいます。どのような手立てが考えられますか。

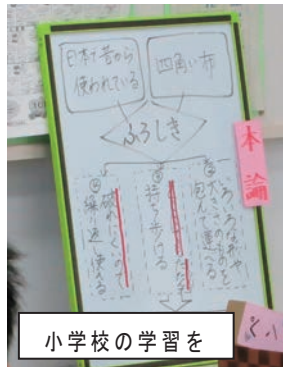
A

子どもたちがこれまでどんな学習をしているのかを把握し、その学習経験を生かした授業を組み立ててみましょう。

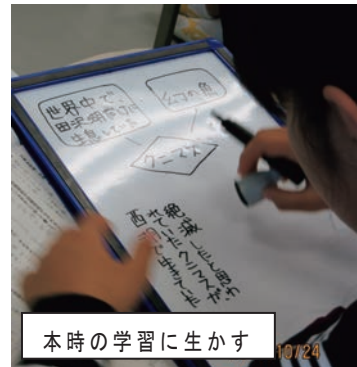
### 具体的実践から

#### 1 既習事項を振り返り、本時へのつなぎ方を工夫する

本時は、説明文の要旨をまとめる学習でした。要旨をまとめることを苦手とする子どもたちが多いという実態から、授業者は、まず小学校時に学習した説明文で、文章構成を捉える学習に取り組みせました。子どもたちは、その学習を想起しながら、本時の学習を進めていました。



小学校の学習を



本時の学習に生かす

【既習の文章の読みを生かして本時の学習へ】

#### 2 「できそうだ」感を少しずつ高める

既習事項とつなぐことで、子どもたちは「できそう」「やってみよう」という学習への意欲をもち始めます。それをスモールステップで、長文の説明文で要旨をまとめるという本時のねらいへと迫らせていきます。

また、本時は、文章の要旨をまとめる前に、文章構成図をもとにペアで交流するようにしました。この文章構成図は全員が同じ形式でまとめているため、互いの内容の違いに気づきやすくなっていました。交流ではその違いを中心に話し合い、学びを深めていくことができていました。



【各自がまとめたホワイトボードを見せ合いながら】

「さぬきの授業基礎・基本」では

☆ 授業を行う前に子どもと教材をしっかり把握

まずは子どもと教材をよく知ることがスタート。…(中略)…指導内容についても、教師間での情報交換からいろいろな刺激が得られます。(P.18)



高松市立高松第一中学校 第3学年社会科「国民として国の政治を考えよう」(佐々木孝一先生)の実践に学ぶ

**Q** 根拠をもって意見を述べることを苦手とする子どもたちがいます。個に応じて、どのようなことができるのでしょうか。

**A** 「授業前に計画的に取り組んでおけること」「授業の中で臨機応変に対応できること」を考えてみましょう。

具体的実践から

1 授業前に計画的に取り組んでおけること

授業者は、「根拠を明確にして意見を述べる」ことを大切にしたいと考えました。そこで、まず「未来の有権者として国の政治を考えよう」という単元を貫く課題を設定し、毎時間のつながりを大切にすることで、考えることを焦点化しました。そうすることで必要となる資料を精選することができ、たくさんの資料を提示されると混乱する子どもたちにとっても分かりやすい学習となっていました。

4 単元の学習内容構造図(11時間)

未来の有権者として国の政治を考えよう

学習課題	① 国民の願いは、どのように国会に届くのか(1時間)	② 世論と政治を結ぶマスメディアから、私たちは何を知り、何を考えることができるのだろうか(1時間・本時)
知識	○直接民主制 ○間接民主制 ○議会制民主主義	○マスメディア ○公約、政権公約(マニフェスト) ○メディアリテラシー
資料	○政府への国民の要望(世論調査) ○投票率に関する新聞記事	○候補者を知するための手段 ○投票日前の選挙情勢についての新聞記事

【単元計画より】

2 授業の中で臨機応変に対応できること

子どもたちが根拠を明確にすることができるよう、授業者は丁寧な机間指導を心がけていました。資料の読み取りの際、手の止まっている子どもに、「何に注目しているの?」「○○についてはどうなっているの?」など、一人一人の状態に応じて、着眼点を示していました。



「さぬきの授業基礎・基本」では

【個に応じた指導】

- ☆ 授業を行う前に子どもと教材をしっかり把握
- ☆ 授業の中では、子どもの反応に応じた工夫をする。

(P.18)

観音寺市立中部中学校 第1学年技術・家庭科(家庭分野)「日常食の調理」(齊藤志津代先生)の実践に学ぶ

Q

一人一人に支援をしていると、実技や実習など体験的な活動が時間内に収まらないのですが、どうすればよいでしょうか。

A

継続的・計画的に指導することで本時支援すべきことが見えてきます。事前に教師が活動を経験しておくことも大切です。

### 具体的実践から

#### 1 子どもの実態をとらえながら指導の見通しをもつ

右の資料は、授業者が作成した年間の調理実習計画です。子どもたちとの出会いの1時間は、「座り方」や「布巾の取り方、使い終えた布巾の扱い」から指導するそうです。そして、どの子にどのような関わりが必要かを見取り、以後の指導に活かしていくということでした。

また、年間指導計画を立てることで学習の系統が明確になり、本時行うべき指導が焦点化されます。

	1年	2年	
1	きゅうりの小口切りプレテスト (調理室の使い方)	みそづくり (調理室の使い方復習)	マドレー
2	きゅうりの小口切りテスト ツナサンド	お節料理(田作り、なます) 大根のせん切りプレテスト	だんご
3	りんごの皮むき・うさぎりんご プレテスト	切り干し大根づくり (大根のせん切りテスト)	五平餅
4	りんごの皮むき・うさぎりんご テスト	まんばのけんちゃん	
5	フレンチトースト	わけぎあえ	☆その他

【3年間を見通した調理実習計画(一部)】

#### 2 本時の活動を、事前に教師が経験しておく

学習の系統を把握するとともに、授業者は、実際に授業をするに当たって、子どもの活動を事前に自分が試作してみるそうです。そうすることで子どもがつまずきそうなところを予想し、支援することができます。

このような段階的で綿密な授業計画と適切な机間指導により、子どもたちは50分の中で、調理から試食、片付けまで、無駄のない動きでやり遂げました。



【調理と片付けを分担して取り組む子どもたち】

### 「さぬきの授業基礎・基本」では

☆ 授業を行う前に子どもと教材をしっかり把握

- ① 子どもの実態を的確にとらえる。
- ② 教材についての理解を深める。

(P.18)

### Ⅲ おわりに

本年度出会った総合授業リーダーの先生方の言葉から。

『それは、自分で試してみればいいですよ。そして、ダメだと思ったら、また別のことを試してみればいいですよ』

よい授業を見ると、授業者からたくさんの「実践のこつ」を聞き出されたいくなります。授業討議では、熱心な参会者から「このような場合には、どうしたらいいんですか?」「〇〇の授業で使える教材には、どのようなものがありますか?」と、授業リーダーの先生への質問が相次ぎました。その時の返答が上の言葉です。図らずも、多くの授業討議の場において、何人もの先生がこのように返答していました。

『日々授業をしていると、もちろんうまくいかない時もあります。でも、授業の最後には“楽しかった”という思いで終わりたいんです』

この先生は、音楽の授業の最後には子どもたちの大好きな歌を歌って終わるということでした。そして、この日の授業も最後にお気に入りの歌を歌い、子どもたちの姿が音楽室から見えなくなっても、その歌声が遠く廊下から聞こえてきていました。

『3度実験、ノートいらす』

どの先生の授業も提案性に満ち、目の前の子どもたちを育てるという姿勢が伝わってきました。日々様々な姿を見せる子どもたちが相手のことなので、もちろん自分で納得いかないまま終わるときもあるでしょう。しかし、全力でぶつからないままの失敗はしないという強い意志が感じられました。

例えば、「3度実験、ノートいらす」というこの言葉を残した先生は、授業の前に、子どもと同じ状況、同じ条件で3度実験を試みるそうです。そうすることで、教材研究のノートを見なくても、授業では適切な指示や支援ができるようになるということでした。

この先生は、大学の時にこの言葉を授かったそうです。そして今、この先生を通して私たちがこの思いを受け継ぎたいものです。

授業づくりに真摯に向き合ってきた方々の言葉には、重みがあります。

教材研究の深さ、子どもとの温かい関係、綿密な指導計画など、学ぶべきたくさんのごことが授業を通して示されました。さらに、ここに掲載したような授業を支える言葉と出会ったことも私たちの大切な宝物となりそうです。

教学相長。教えることは学ぶこと。本冊子が、教師の「学びのときめき」を生み、さらなる授業改善の一助となることを心から願っております。



## 授業改善 5つの視点

## 「学びのときめき」のある授業になっていますか？

## 1 課題設定

少し困難な課題を取り入れ、「挑戦」する態度を育てていますか。

子どもがある目標を実現したいと思い、その目標の実現のために多少の困難さが伴うとき、その事象は子どもにとっての課題となります。

「すぐには分からない。でも、粘って取り組みば何とかできるかも。」と子どもが思うような課題も授業の中に取り入れ、「挑戦」する態度を育てましょう。

拓也さんが作った表の1回目の調査で、落とし物の合計のうち、文具の占める割合を求める式を答えなさい。

拓也さんが作った表

	1回目	2回目
文具	201	212
ハンカチ・タオル	49	28
その他	55	50
落とし物の合計	305	290
落とし物の合計の平均値 (1学級あたりの落とし物の個数)	20.3	19.3

平成 27 年度全国学力・学習状況調査 中学校 数学B B

この問題を解くのに必要な情報はどれかな？



## 2 見通し

「方法」に加えて、「結果」も予想させていますか。

「どうしたらよいか」という方法の見通しに加えて、「どうなるのだろうか」と、結果の見通しをもたせることで、自分の予測や仮説等が正しいのかどうか「分からないから学習しよう」という学習意欲につながられます。

「授業展開を予め理解すること」だけでは、「授業」は「作業」になってしまいかねません。

どうなるでしょう。  
どうしたらよいでしょう。

ドキドキ  
ぼくは、こうなると思うよ。  
でも、あっているのかなあ...



## 3 言語活動

相手意識をもたせて、発言させていますか。

授業で「交流」を仕組む目的は、自分や相手の考えを広げたり深めたりすることです。お互いに意見を「表明し合う」だけでは意味がありません。

どのような理由や根拠をどのような順番で話せば自分の考えが相手に伝わり、理解してもらえるか、という相手意識をもって、発言させることが必要です。

ぼくは…

ぼくの見解は〇〇です。

わたしの意見は〇〇です。

わたしは…

順番に発表してその後、シーン…。これって「交流」？



## 4 振り返り

その授業で自分が何を学び、どう変わったかを実感させていますか。

振り返りでは、学習内容を「まとめ」として振り返るだけでなく、自分が何を学び、どのような変容があったのかを実感できるような工夫が大切です。このような振り返りができると、学んだことを次に生かそうとする、学習意欲もはぐくまれます。

まとめ

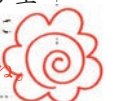
学んだことの定着のために重要

受粉したホウセンカの花粉は数分で花粉管を伸ばし始め、時間の経過とともに花粉管が伸びていく。

感想

学習意欲をはぐくむために重要

花粉から管が伸びるなんて予想外で驚いた。細胞が生き続けていることが実感できた。植物も子孫を残すために懸命に活動している。生命の神秘性を感じられているね。



## 5 授業全般

その授業で子どもに「身に付けさせたい力」が書けますか。

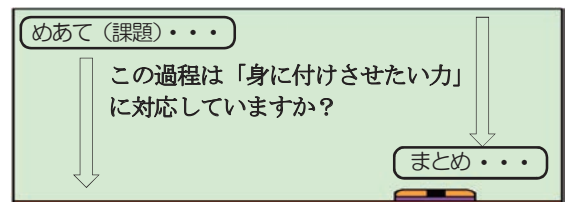
授業の活動は、子どもに「身に付けさせたい力」を付けるためのものになっていますか。教師が指導しすぎることで子どもの思考場面を奪ったり、主体性をはぐくむという名目で放任しすぎたりする授業にならないよう、十分注意する必要があります。

めあて(課題)・・・

この過程は「身に付けさせたい力」に対応していますか？

まとめ・・・

たとえば、「力」を教師用の授業案に付箋で貼れますか？



さぬきの教員 かかわりの三訓

一 共感的に受け止め

二 チームの力で

三 毅然と粘り強く



香川県教育委員会

さぬきっ子 学びの三訓

一 準備して

二 姿勢整え

三 しっかり聞こう



香川県教育委員会

